

## 斜里岳（1547m）日本百名山

2023年8月28日 Shiba

一昨日の雌阿寒岳登山では天候に恵まれ素晴らしい景観に接することができた。翌日には続けて斜里岳に登る計画であったが、雌阿寒岳下山時点では翌日の北海道は結構荒れた天候になり、それが翌々日までおよぶとの天気予報であった。予備日を1日設けていたので、天候回復に淡い期待を抱き斜里岳登山を後回しにしたが、結果的には叶わなかった。

前日は地元清里町営の緑清荘に宿泊。この宿は日帰り温泉施設として地元民客も多いが、コインランドリー設備に加えて立派な乾燥室が備わっており、たとえ山でびしょ濡れになってもバッチリ後始末が可能であるので登山客にとっては有難い宿である。

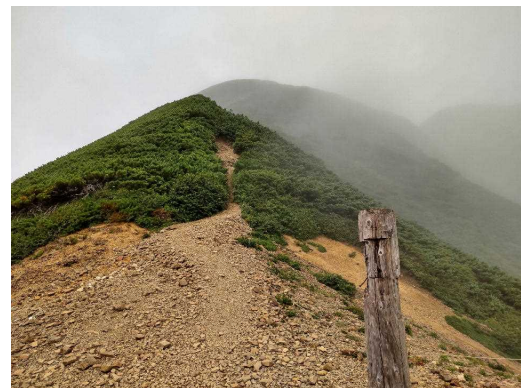
斜里岳へのアプローチは清岳荘を起点とする一般的な清里コースを選択。宿から清岳荘までは20分程。案の定天候はすぐれず、全体的に薄いガスが立ち込めている。駐車場には4台程の車があったが、本日の先着組だろうか1台だけが車体下のジャリが濡れていた。

清里コースは渡渉箇所がいくつもあるので、まずは足回りの準備から。渡渉で靴がずぶ濡れになってもいいように靴下の上にナイロン袋をかぶせてから靴を履き、スパッツを着ける。

6:00に出発。なだらかな下り道を少し行くと林道に出るがほどなく林道の終端、ここからが山道になるが谷道なのでほとんど傾斜はない。出発から20分程で沢にでる。ここからが渡渉の始まりである。幾度となく渡渉を繰り返して40分程で下二又に着く。これまでの道は傾斜の少ない道であったが、ここからは旧道コースをとり、傾斜のある岸壁登りとか渡渉の繰り返しが続き2時間程で上二又。渡渉をするのもほぼここまでで、水量的には靴ひもがつかまるまでのところはなかった。上二又から40分程で馬の背の鞍部に到着。天候の良化を願うかガスの引く気配はない。頂上まではあ



斜里岳登山口



馬の背から頂上を望む



斜里岳頂上の標識

と 30 分程の所なので、荷物をここに置いて空荷で頂上までと考えたりもするが、ここは熊の居住地「ヒグマ誘因のためザック残置禁止」の注意書きを目にして思いとどまる。頂上手前で雨がぱらつき始めたため雨具の上だけを着こみ山頂には 10:30 に到着。山頂ではコガネムシを 4~5mm 程に小さくした虫がいっぱい。払っても払っても衣服にまとわりつくので記念写真もそうそうに頂上を退散。山頂から 30~40m 離れたところに三角点があるが、コンクリート製で金属標を埋め込んだ初めて見るタイプの三角点標識だった。下りは新道コースを下るが皆さんに披露できる写真は撮れなかった。雨は途中でやんだりもしたが、いつの間にかそれなりの降雨になっていて雨具のズボンを着る機会をうしない下山した時には着替えが必要な状態であった。



コンクリート柱に金属標を埋め込んだ新しいタイプの三角点標識

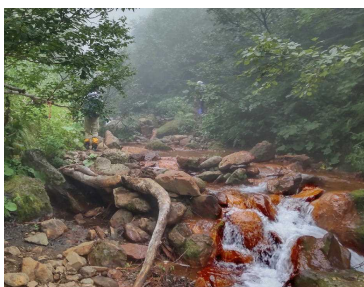
筆者にとって本日の斜里岳登山はリベンジ登山。本日の同行者と 2 年前にもチャレンジしようとしたが、筆者だけが体調を崩して登頂を断念した経緯がある。そのため、当初の計画は未経験コースである三井コースから登ろうとしていた。マイナーな登山口であるので前日に登山口の下見を実施。農道から林道に差し掛かるところ獣除けフェンスがある。フェンスの扉を開閉し 20m も進むと道の両側から草やブッシュがぼうぼう。レンタカーではあるが障害センサーがピーピーと鳴り、アクセルを強く踏むとブレーキが働く。これでは登山口までたどり着くのは無理とあきらめた。

同行者には筆者のリベンジ登山にお付き合いいただいたために、結局雨中の登山になってしまったことに申し訳なく思うと共に、筆者の思いを果たせたことに深く感謝申し上げます。

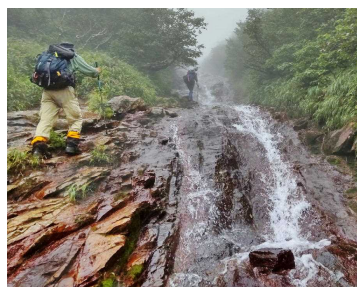
◆メンバー：S、他 2 人

◆コース：清岳荘 6:00~下二又~旧道~上二又~馬の背~斜里岳山頂 10:30~馬の背~上二又~熊見峠~下二又~清岳荘 14:35

◆所要時間/歩行時間： 8 時間 35 分/7 時間 20 分



登りのある渡渉箇所



滝の流れる端を登る



ザック放置禁止の注意書き